

平成 28 年 網走市議会
総 務 経 済 委 員 会 会 議 録
平成 28 年 6 月 6 日（月曜日）

○日時 平成28年 6 月 6 日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 平成27年度観光客入込・宿泊施設利用状況について
2. 行政視察の取りまとめについて
3. その他

○出席委員（8名）

委 員 長	渡 部 眞 美
副 委 員 長	井 戸 達 也
委 員	川原田 英 世
	工 藤 英 治
	佐々木 玲 子
	田 島 央 一
	立 崎 聡 一
	松 浦 敏 司

○欠席委員（0名）

○委員外議員（1名）

議 長	山 田 庫司郎
-----	---------

○傍聴議員（4名）

金 兵 智 則
永 本 浩 子
平 賀 貴 幸
古 都 宣 裕

○説明者

副 市 長	川 田 昌 弘
観 光 部 長	二 宮 直 輝
観 光 課 長	伊 倉 直 樹

○事務局職員

事 務 局 長	大 島 昌 之
次 長	永 倉 一 之
主 査	小 林 久 一

を開会いたします。本日の委員会でございますが、観光部より平成27年度観光客入込・宿泊施設利用状況について説明を受け、理事者退席の後、行政視察の取りまとめを行いたいと思っております。

それでは、平成27年度観光客入込・宿泊施設利用状況について、観光課長から説明をお願いいたします。

○伊倉直樹観光課長 平成27年度観光客入込・宿泊施設利用状況について御説明をいたします。

お手元の資料1号をごらんいただきたいと存じます。

観光客の入込客数は253万2,000人で、対前年比108%、宿泊者数は37万4,000人で、対前年比104%となり、前年を上回る結果となりました。

この主な要因ですが、まず、上期の動きとしましては、ゴールデンウィークの日並びがよく、天候にも恵まれたほか、連休以降も例年より早くシバザクラが見ごろを迎えたことなどもあり、道内客の動きが散漫の中、道外客の団体周遊型企画商品の入込みや個人型旅行客に支えられ、底堅く推移しました。

昨シーズンから秋口にかけては、天都山展望台・オホーツク流氷館のグランドオープンやマラソン大会の開催など、宿泊や入込増を後押しする要素もあり、前年のチャーター便やサン・プリンセス号による入込増の反動減があったものの、前年を上回る結果となりました。

一方、下期につきましては、10月に入り、天都山展望台・オホーツク流氷館への来場者数の増加や、国の交付金を活用した宿泊バスツアー商品造成事業や、クーポンつき宿泊プラン事業などの効果もあり、入込数、宿泊数が前年を大きく上回る結果となりました。

1月以降は国内宿泊客が低調に推移したものの、台湾や香港を中心とする外国人旅行客と観光客の観光施設への周遊型企画商品による動きに支えられ、入込数は前年度を上回りました。

観光施設の入込についてですが、天都山展望台・オホーツク流氷館のグランドオープン効果もあり、対前年比141%の19万4,000人となり、前年を大きく上回りました。

午前10時00分開会

○渡部眞美委員長 ただいまより、総務経済委員会

また、博物館網走監獄につきましても、22万2,000人で、対前年比106%と前年を上回りました。

流氷観光砕氷船おーろらの乗船客数につきましては、流氷の接岸が遅かったことや接岸時間も短いなど、マイナスの要因が重なりましたが、結果的に対前年比102%の8万7,000人となりました。

外国人観光客の宿泊につきましては、中国人観光客は前年並みで推移したものの、台湾からの観光客が2年連続で過去最高の数字となったこと初め、依然として好調を維持しているアジア諸国のけん引と欧米諸国からの宿泊者数が堅調に推移し、外国人観光客全体で、前年比112%の3万5,000人となり、過去最高だった前年の数字をさらに上回る結果となりました。

以上で、平成27年度観光客・入込宿泊施設利用状況の説明を終了いたします。

○渡部眞美委員長 ただいまの御説明に対しまして、質疑等ございますか。

○松浦敏司委員 前年よりも上回っているという点では、いい傾向だというふうに思います。

ただ、条件が流氷館のオープンだとか、そういった一定の条件はあるのだけれども、今後、どうなるかっていうのは、推移を見なければわからないというふうに思うんですが。1点、お聞きしたいのは観光客の入込み数というのは、153万2,000人ということなんだけれども、これは、いろいろな施設等で入館者というのは、正確につかめるのだけれども、この観光客の入込みってというのは、どういう方法で調査がなされて、こういう数字が出てきたのか、その辺、説明いただければと思います。

○伊倉直樹観光課長 宿泊施設につきましては、各施設の入込み状況をカウントしておりますので、その実数数値を使っておりまして、それ以外の公園関係、現地ですとか、そういったものは現地の管理人の人がいますので、そういった形の数字を拾って計算しております。

あと宿泊施設につきましても、必ず数字は各ホテルで取っておりまして、その数字をもとに、それらを全体的に計算の上、入込数値の計算をしております。

○松浦敏司委員 施設とか宿泊といったところの数字をつかむのは、数字が出てますから、割と簡単ですね。

入込み数という点では、一定の拠点、拠点で多分調査して、その結果の積み上げで、こういうふう

になっているのだというふうに思うのですが、それは、幾つかの拠点で、数値を把握していると、捉えてよろしいでしょうか。

○伊倉直樹観光課長 一定の拠点を基準にして計算しております。

○松浦敏司委員 わかりました。実は先日の新聞報道で旧友愛荘が、本州の業者が後を継ぐというような話も聞いていたわけですがけれども、その辺、もし、直接的な関係は無いんですけど、把握している部分で、報告できる部分があれば、報告していただければと思います。

○川田昌弘副市長 正式に継続して営業するといったような、法人の方から市に対して、まだ報告はありません。

新聞報道で知る限りの情報しか持っていません。

管財人の弁護士さんにも連絡をとっているんですが、弁護士さんのほうから、そういった会社の具体的な名前を市に教えることは、今の時点では、できないということでありますので、あくまでも、受けようとしているその法人から市に対して何らかのアクションがあるのではないかというような状況であります。

○松浦敏司委員 わかりました。非常に展望の持てるニュースといいますか、いろんな点で、ホテルが存続するか、しないかっていうのは特に観光面で影響もあると。

○川原田英世委員 松浦委員と重複する部分もありますが、やっぱり数字の実態の把握というのは非常に重要なかなと思っていまして、宿泊については実数が出ているので、あれだ思うのですが、入込数に関して、対象とするところが他の自治体と同じ基準で調査されていないと、比べようもないのかなと思うんですが、何か一律の基準というか、そういうものはあるのでしょうか。

○伊倉直樹観光課長 他の町の入込みの仕方というを詳細に調査をしたことはございませんので、どの辺まで同じような基準でやっているのかというのは、ちょっと把握しておりません。

○川原田英世委員 わかりました。何かしら、これから必要になってくるとか考えさせられるところです。施設等が入ってきたものを足したという形なんでしょうか。

流氷館だと扉が開いた数でカウントされ、入口の自動ドアが開いた数でカウントして、あまり出たり入ったりしないでくださいと言われてたりしたのです

けれども、そういった数字をもとに、プラスして計算しているのが、この数字だということで理解していいのでしょうか。

○二宮直輝観光部長 ただいまの御質問でございますけれども、基本的に道の観光局で、全道の圏域別の数値をまずつくります。その段階で一定のルールで、カウントの仕様があって、網走の場合ですと宿泊施設があり、入場施設があり、園地があります。

そういった数字を北海道観光局の手法で推計した数字ということになっていますので、基本的には同じ圏域、あるいはその市町において同じルールで定点観測された数字になっているというふうに考えて結構かと思います。

○川原田英世委員 はい。道のほうでそういったのがあるということで理解させていただきました。

それともう1点お伺いさせていただきたいのですが、宿泊に関しては人数も把握されているということで、だいたい全体も把握できていると思うのですが、リピーター率について国内・国外あわせて、そういったものも把握されているのですから、教えていただきたいと思うのですが。

○二宮直輝観光部長 リピーター率ということについては、観光調査を次年、次年でやっています。例えば、2014年の観光振興計画のときのベースとなった数字は、そのときのマーケティングデータによるものでありますが、毎年のですね、この実績の数字でリピーター率を押さえてはおりません。

ただ、道の圏域別の調査とかは、断片的にはリピーターとか、外国のお客様、国内のお客様の数字を押さえているというのが実態ですが、毎年、毎年での結束はいいということですよ。

○川原田英世委員 はい。わかりました。

マスコミ等で、外国人リピーターが非常に増えてきているなんて報道もあったものですから。

また、リピーターになると固定化してきて、その人が情報発信をしてくれるというところで、輪が広がっていくとかですね、そういった報道等もありますので、これからそういったものの把握も重要になってくるのかなと思ってお伺いさせていただきました。

私のほうからは以上です。

○渡部眞美委員長 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

なければ、ここで暫時休憩をいたします。理事者

は退席をお願いします。

午前10時14分休憩

午前10時15分再開

○渡部眞美委員長 再開いたします。

続きまして、2番の行政視察の取りまとめについてでございますが、取りまとめの方法については4月13日開催の当委員会におきまして、各委員がレポートを作成し、委員会で意見交換を行い、本日取りまとめるということことで決定をしております。

6月2日期日の報告書、皆さんのお手元にそれぞれお配りいただいていると思います。

まず、各委員のレポートは提出いただいておりますが、本日、取りまとめということですので、簡単で構いませんので、各委員から順に報告をいただきたいと思います。

報告の順番は、どちらからにしますか。

順番は前回同様、こちらから行きますか。

暫時休憩いたします。

午前10時16分休憩

午前10時17分再開

○渡部眞美委員長 再開いたします。

それぞれ資料の確認をしていただきましたので、それでは田島委員のほうから、順次御報告をいただきたいと思います。

○田島央一委員 資料にあることは省略して、所感を述べたいと思います。

結婚奨励事業については、香川県のそもそもの面積を留意したときに、もうちょっと自分もそういう視点を持って、質問すればよかったかなということを感じました。

香川県は日本で1番狭い都道府県なので、そういう中での広報というのも、単純に市だけじゃなくて全域でやっている感じも伝わってきましたので、この辺も、ちょっと考えて質問すれば良かったかなと反省がありました。

あと、県の事業と連動しているので財政的にも安定して、恵まれた環境にあるなと感じました。

次に、つるぎ町のつるぎクラブ事業についてなんですけど、観光客が行くような形での周辺整備がまだまだ追いついてないというのを一つ感じたのと、うだつの町並みは、隣の脇町というところはがやっぱり注目というか、人が行きやすい環境になっているので、そこも立ち寄って、比較しておけばよかったという反省も一つありました。

あと、体験型観光の三好市は、観光協会みたいな

プラットフォームが、しっかりしていくのが相当課題だというところが見えてきました。これは、多分ほかの委員も感じたところだと思います。

あとは、サテライトオフィスもやはり人口減少を抑制するレベルに追い付いてなくて、人口の減り方が半減しているような状況で、食いとめるということではなかったの、努力はされていましたが、なかなか厳しいなという感じがしました。

あと、高知市の中心市街地の活性化については、さまざまな取り組みがなされているのですが、やはり、自分の問題意識としても、南海トラフ地震が来たときに、どのようなまちづくりを今後進めていくのかというところでも、取り組みがなされていたので、その辺、民間との連携も含めて、避難ビルを選定、指定して、そこに皆さんが入っていくような対応も含めて、いろんなことが聞けたので、思わぬところからいろいろな勉強になったなというところは感じました。

以上です。

○川原田英世委員 僕も記載したとおりなのですが、さぬき市の方ですね。

移住政策について、それぞれ多々あり、独特な取り組みとして、この結婚定住ということでありましたけれども、なかなか成果が出づらいというか、難しいのだなと。ただ、特色な取り組みとして、というふうに、今後さらに深まっていくのかなというところで考えさせられたなというところです。

ただ、流出先が非常にコンパクトにまとまっているというか、近いところが多いということです。地域にあった取り組みではあるのかなと思いました。

こういった取り組みを北海道網走バージョンということで、考えたときには、もっと深く考えていかなくては難しいのかなというふうに考えさせられました。

つるぎの達人事業の取り組みは全国的にも盛んになってきて、それぞれの町を紹介するという方は、地域にいるのだというところは、すごく興味があるところでした。

ただ、先ほど言われたように、観光するにも歩いていたら、車がびゅん、びゅん通って行くような感じで、インフラが追いついていないというか、まち全体で、もう少し取り組んでいく必要があるのだと思った。

また、これもちょっと網走に当てはめていくと、

どうなのかなのかなと、今の状況では難しいのかもしれないなと思いつつも、観光施設等が徐々に新築され、川沿いの魅力だとか、そういうことも考えていくと、これから考えていく必要があるのかなということで考えられるところでした。

三好市の体験型観光についてですが、これは僕も非常に興味を深く、視察させていただきました。

いろいろな素材は地域にあるということはもちろんですけれども、やっぱり農家に泊っていくと、修学旅行のような形で泊っていくと、網走でも、かなりニーズはあるということなのではけれども、実際には、なかなか進んでいない。過去には何回かやったことがあるという話を聞いたことがあるんですけども、そこからしっかり財源を作っていくって、自主財源化した日本版DMOというような、将来は、三好市も見直しも考えていると思うんですけども、そこら辺が非常に興味深く、聞かせていただいたなというところですね。

サテライトオフィスもうらやましいなと思ったところでした。

網走でも、是非、やりたいなというふうに思わせていただきました。

高知市もうらやましいなと思ったところです。

人口規模から考え、新しいものがどんどんできあがって、今年、来年あたりで、次々と町が生まれ変わってオープンしていくところでは、地域の中心地でもありますから、役割としても非常に大きい部分があるんだなと思いますけれども、ただ、なかなか網走とは結びつかない部分も多いのかもしれないんですが、町の中心地活性化ということで、網走と同様の課題は抱えているということもありますので、見させていただいた中で、防災とも絡んでいるということも含めて、非常に勉強させていただきました。以上です。

○立崎聡一委員 内容は報告書を読んでいただければ、そのとおりなのですが、感じたことは、さぬき市については、まあまあ、年々増えているということを見ると、そこそこ、成果は上がっているんだろうなというふうに思います。

ただ、当市にはちょっと難しいんだろうなというのは僕も感じました。

逆に言ってしまうと、あの取り組みで増えていくということが、逆にすごいなというふうには感じて帰ってきたので、きっかけをつくってやれば、そういうこともできるのだろうなというふうに感じまし

た。

次に、つるぎの達人なんですけれども、まあ、時間の都合もあったので、うだつの部分についてはですが、体験しながら、お話を聞かしてもらったというところなんでしょうか。

実際はうだつもそうなのでしょうけど、もう一つの巨木が多分メインっていうか、結構力が入っているんだろうなというふうに思いました。うだつの町並みは車が通ったりして、ちょっとまだまだという感じがしたんですが、その巨木のほうがどうなのか。地形的に僕らの体力が持つのかどうなのかというがあるので。

それをやっている、そういう自然環境はすごいんだろうなと思いました。

できるだけ素材的に、例えば、あるのであれば、当市も考えていかなければ、いけない事業だというふうに思いました。

次に、三好市の体験観光の取り組みとサテライトオフィスなんですけども、体験型観光は、市場が近くにあるということもあるでしょうけども、かなりの方が来ているんで、これからやはり進めていったら、面白い事業なんだろうなというふうに思います。

それで、後継者のお話もされていました。

町のおばちゃん、僕も書いたのですけども、黒木という方ですけど、あの人とちょっとやっぱり一度お話ししてみたかったっていうのは正直なところですよ。

サテライトオフィスについては本当にうらやましいなと思いました。

出来るのであれば、小学校の跡地なんか見ちゃうとすぐやれそうな感じもしますので、いろいろなことを考えながら、ちょっとやってみるのもありなのかなというふうに思いました。

高知市については、お話を聞いただけではと思ひまして、夜、自分の足で歩いたんですが、皆さんも体験した通り、ひろめ市場が定休日、日程的に残念だったなっていうのが1番の印象です。

それと防災の話が出たのですけども、そこをやっぱり、今後考えていかなければならないだろうなというふうに思いました。

いろいろな取り組みあるのは、当然なんですけども施設を含めたハードの面で、図書館にしても、資料館にしても、本庁舎も、何にしても今、建てかえがものすごく進んでいますよね。

そういった意味で、そこは防災の拠点になるということも考えているところが、今後、これからのあり方なのだろうなというふうに感じました。

以上です。

○工藤英治委員 さぬき市の場合、結婚定住促進事業を毎年、やっても人口は減少しているが、実施されなければ、もっと減っているかなという感じでした。

つるぎ町のつるぎの達人は、リピーターによる経済効果も拡大しているそうだが、今後、この事業を続けていくには、つるぎの達人の後継者の育成が重要なかなと感じました。

三好市の体験型教育旅行は、豊かな自然を売りにして、地元食材でつくる田舎料理を学び、人間関係が希薄な時代に、日本人が忘れかけている心豊かな田舎暮らしに触れるすばらしい事業であるが、農家民泊等での受け入れ先を、どう見つけていくか、また、これから育成していくかが課題なのかなと思いました。

もうひとつのサテライトオフィス誘致の取り組みは、県の積極的な姿勢と立地条件の良い廃校の条件が結びついた結果だと考えられる。

高知市では中心市街地活性化の取り組みについて説明を受けたが、バードの面では人口規模からいっても網走の参考事例になり得ない感じだった。

ソフト事業で、57事業の中で、日曜サポート事業に興味を持った。

日曜サポート事業は、市民と商店街をつなぐ大きな役割を果たしていると感じました。

学生活動交流館は空き家を利用して、ボランティア活動、学生の交流の場になっていたが、網走でも学生の自主性を引き出すことで、参考になりそうな取り組みかなと感じました。

○佐々木玲子委員 いろいろと事業の内容を書かせていただいたのですが、この結婚定住奨励事業なのですが、私が感じたのは、この制度は、若手職員の研究から生まれてきたってということで、ここが印象的だったんですね。やはり、どうしても行政はトップダウンによる発信は多いので、これがボトムアップで行われているというところが、皆さんも共感を得られたんじゃないのかなと。

それに付随して、単なる結婚定住奨励事業だけでなく、定住促進奨励金、地域就職サポートセンターだとか、いろんな事業がそれに合わさって、そのまま定住してもらって、効果が広がっていくよう

な仕組みづくり。

それと面白かったのが、3世代同居近居支援金というのがあるんですけど、これはですね、3世代同居っていうと、私たちはどうしても同じ家の中に同居しないと絶対だめなんじゃないかと。

そこを近居支援金っていう、近居という言葉がついて、同じ町の中で助け合いながら3世代が暮らすならば、いいんじゃないかという、市長さんのおおらかな発信の仕方がおもしろいなど。

どうしても行政からの発信は、条例があってこれがあるというふうに、それにはまらないとだめっていうのがあるんですけど、そこをちょっととおおらかに柔軟性を持たせている。

その辺からこの結婚定住。それでも人口が減っているとは言いながら、相当人口減少が抑えられているんじゃないかなと。

住んでみて、すごくよかったという声が多いのかなというのを感じまして、これは是非また網走としても職員の意見なんかを聞いて、プロジェクトチームなんかをつくるなんていうことも可能じゃないか、是非考えて行くといいのではないかという事業でした。

つるぎ町に関しましては、合併したばかりの本当に小さな町で、その合併したときの村長さんが、この巨木をこの町の売りとして、大きく発展させていきたいというところから始まった。

町内に住んで皆さんが、改めてその自分の町の歴史とか、巨木だとか、そういうところ勉強しながら、本当に勉強してみなければ、わからない町の良さを感じて、達人が33人誕生したということで、一緒にうだつなんかを見たり歩いたりしたんですけども、やっぱりうだつよりも、この巨木というのがつるぎでは、本当にメインのように思います。

名刺を見せていただいても、いろんな巨木のイラストを採用して、自分の町をアピールしようと一生懸命頑張っているのもわかります。

そういうふうに私たちも、あばしり学はやっていきますけれども、地元の市民がやはり自分の町の事を、まだまだ、自分の町のよさに気が付いていないというところが、一つの問題点じゃないかなと思うので、その辺を、もう少し掘り下げていけたら網走観光も変わってくるのかなっていう感じがしました。

3カ所目のサテライトオフィス誘致に取組みは、休廃校の活用についても、網走でも随分、今、空き

校舎になっているところもありますし、空港から近いということもありますし、これは、すごく私たちにも取り入れやすい先進事例ではないかなというふうに感じてきたので、また、これは、勉強しながら網走にとって何かできないかというところは、参考にできる事業だったかなと思います。

体験型観光のほうでは、やはり私が一番感じたのは、農家の宿泊教育旅行ということで、すごくその核家族化している中で、どこも中央も田舎も関係なく、核家族化してきているなという中で、子供たちが、直接その知らない人または大人の中で、たった一晩から暮らただけで、感動してお礼の手紙がきたり、親御さんとまた遊びに来たり、結婚式に来てくださいという、言われるほどまでの、強いきずなが結べるというのは、人との交流がなかなか、希薄になっている中で大事なことかなと、さっきもお話がありましたけれど、網走は大型農家が多いのでなかなかその協力していただく農家が少ないのかもしれないんですけど、何らかの形で田舎の宿泊体験というのは、すごく参考になる事例だったのかなと。

ぜひ、皆さんでやってみたらどうかと。そして、この来訪者と旅行業者と地域とつなぐワンストップ窓口が、その機能を担う事業体であるという、ここがものすごく大事かなと。

よく、私もワンストップというのは、行政の仕事でも言ってきたんですけども、やはり観光についても、網走が本当に今の素材があるんですけどもそれをうまくコーディネートされていないというような部分も感じているところがあるので、そういう面でもちょっとここは参考になったかなと感じたところですし、提案して提言していきたいなと感じたところです。

高知市においては、中心市街地活性化の取組みについてですが、これは中心市街地活性化基本計画をつくっているということで、網走はいまだそれに取組んでないというところで、そこは一つ、考えてみなければいけないのかなと。

空き店舗対策なのですけども、うちと違いました、ここの高知市の場合、一歩踏み込んで、拠点エリアを考え、また、その空き店舗対策においても全く新規の出席じゃなくて、事業拡大についても応援しているということもおもしろいなど、そしてエリアを拡大させているというところ、これ網走でも、どうして4条に面したところだけというところに特化している部分がありますので、もう少し柔軟

性を持って、また、事業の拡大というところで観点を持っていけば、またちょっと変わってくるのかなと、そういうところも感じたところで、その辺をこれから、また研究させていただいて、1工夫も2工夫もできるのではないかなと感じたところですので、また改めて資料なんかを詳しく、研究して、提言なんかをしていきたいなと感じたところです。

○松浦敏司委員 香川県さぬき市の結婚定住奨励事業ということで、先ほど佐々木委員からもあったように、平成24年度に若手職員による人口減少対策に関する政策課題研究というようなところでこういう発想が出てきたということで、一定の条件を満たしていれば、そこに10万円分の商品券ということであります。

商品券を発行するというので、結果として、これは、一定の定住につながっているということでの人口減少というのは、今、全国どこへ行っても、これは簡単にとめられるような状況ではありませんし、何か一つやれば、止められるものではない。

これは国挙げて取り組まなければなかなか止まるものではないというふうに思いますので、そういう中にあって、人口減少を止める効果のある取り組みだというふうに思っておりますし、商品券を発行することによって、地元の経済波及にも効果があるという点でも非常に参考になったかなと思います。

2カ所目の徳島県つるぎ町ですけども、徳島県そのものが、山に囲まれている地域が多いですね。

そういう中で、つるぎ町ということで、私はやはり歴史の違いを感じました。

うだつの地域は、先ほどお話でもありましたが、江戸時代につくられたものが残っている。道路幅が狭い。それはそうなんです、当時は馬車でものを運んでいたわけですから、道路は、当然その場所の通行ができればいい状況なので、町並みが残るということは、それをいじっていないから残るわけで、そういう意味で非常にすごいなというふうに思いました。

また、巨木の話もありました。巨木めぐりツアー、うだつ、そして吉野川ツーリングカヌーだとか、つるぎクラブ定番の巨樹めぐりなど、六つほどの特徴を生かしていると言いますかね。

達人の案内も非常に上手です。とてもボランティアでやっていると思えない。親しみの感じる案内で非常に良かったと思ったところです。

網走でも確かに巨木もあるんですね。

それをどういうふうにするかという点では、難しい面はあるかと思いますが、非常に勉強になるものだったと思います。

3日目の徳島県三好市。ここも4町2村が合併してきた町で、高齢化率は4割ということで、すごい状況だと。そういう中で、インターネットなどを中心とした取り組みがなされているわけですが、担当者の説明会の中で、なるほどと思ったのは、「仕事はデジタル、暮らしはアナログで」、これもなかなかの名言だなと。

まさに、これは地域の不利な条件から有利な条件を最大限活用した。知恵を出して、努力をしているという点では、学ばされたなというふうに思います。

それからは最後の高知市は、南海トラフの関係で、今、高知全体がそれに向けて津波対策に対応する町にしていかなければならないという取り組みの中で、いろいろな施設ができていていることはあるんですが、まずそういう中で、非常に感心したのは、活性化における状況と主たる課題をしっかりとらえていることと。

一つ目は、中心市街地の居住人口の減少、いわゆるドーナツ化現象。

二つ目は、中心市街地の魅力低下に伴う来街者が減少していること。

それから、三つ目には中心市街地のにぎわいの低下があるということをしっかりと捉えていること。

そして、中心市街地の居住人口や歩行者の通行量まで調べてですね。そういう意味で非常にそれに対して、どういう取り組みが必要なのかということも取り組まれていて、そういう点では非常に、きめ細かい対応というのをしているのかなというふうに思いました。

先ほど、佐々木委員が言われましたように中心市商店街の補助率のとか、あるいは限度額だとか、あるいは新規だけでなく、拡大する者に対しても補助しているという点で、やっぱり、なるほどなという取り組みだったというふうに思い、これらは当市においても、生かしていく必要があるのかなというふうに感じたところです。

以上です。

○戸井達也副委員長 皆さんから一通り、だいたいの意見が出て、感想が寄せられたというふうに思いますけれども、私ほうからも、さらっとですね、報告したいと思います。

やはりポイントは、今、若手職員の発想によって始められたというのが一つ大きなものなのかなというふうに思います。

こうして若い世代が、これからの町の危機感をですね、いかに感じてですね、こういった事業を打ち出していかってというのは、どこの町でも、恐らくこれから重要な部分になってくるというふうに思います。

特に、このさぬき市についてはですね、さぬき市が近隣都市のベッドタウンとしての役割が大きいというところが、成功のポイントになっているのかなというふうに思います。

当市においても、こういった参考なる部分として、やはり自由な発想で、多くの人方がですね、特に若い世代が、こういったものの考え方をどのように進めていくのかというのがひとつ、これからのポイントになるのかなというふうに感じます。

続いて、徳島県つるぎ町ですけれども、ここは本当に、まず四国全体が、私の感想から言いますと、北海道とえらく、自然という部分では共通する部分がございますけれども、ちょっと違った、自然の形があるなというところで、そういった部分を上手にですね、町の欠点として捉えずにですね、ここを利点と捉えて、物事を考えていくという部分では非常にすばらしい意識を持っているなというふうに思います。

当然、高齢化もですね、4割を超えているということで、非常に危機的な状態であるにもかかわらず、この状態で何ができるのだというところを自らから考えて動いているなという部分で、そこで出てきたのがアットホームな方式ホスピタリティーという部分であり、非常に実際案内されたガイドの方もですね、人間味あふれると言ったらおかしいですけども、そういった部分で、本当にあの田舎ならでの強みを生かしたというような、事業を展開しているなと感じました。

今後、この網走市も、こういったことは非常に参考なる部分があるというふうに思いますので、市民のいろいろな方々にかかわっていただくかというのが、これからの課題かなというふうに思います。

続いて三好市ですけれども、今回行った中で、この三好市の取り組みはですね、非常に大きく、私の中で印象に残ったものでございまして、印象としてはですね、大成功しているのではないかなというふうに思っております。

ここも過疎化が進んで、さらに今4割を超える高齢化率というところで、このままだと我々の町はどうなるんだというようなところから、いかにしてこの町を、何とかしていかなければならないなという発想のもとに始まったのかなというふうに思います。

先ほどの松浦委員のほうからもありましたけれども、仕事はデジタルで暮らしはアナログと。

本当にあの上手いキャッチコピーを付けてですね、取り込んでいったのかなというふうに思っております。

実際、サテライトオフィスも見させていただきましたが、生活する上で不自由がないという部分と、むしろ自由な発想が生まれる環境ということと、自由な発想というのがいかにして、人を前進させていくというような印象を持たせていただきました。

また、体験型教育旅行というのも、非常に順調だというお話もされておりましたので、こういったものも、網走市としても、特に何があるというよりは逆にですね、なんでもある網走市というような形で、これからいろいろなものつなげて行ける可能性があるのではないかなというふうに、ひとつ感じさせていただきました。

ここも田舎であり、自然が豊かだというものを武器として、非常に関心のある事業だというふうに思いました。

続いて、高知県高知市ですけれども、中心市街地の取り組みということで、計画の中で57の事業ということで盛りだくさんの事業も着手しているという部分で、町の規模があまりにも大きいので、うらやましいなと思う部分が非常に多かったですけども、田島委員からもありましたけれども、その災害時の対応ということで、民間ビル会社と協定を結んで、いざというときは、窓を割って、侵入できるというような協定を結んでいるというところもあり、非常に、きめ細かく、いろいろな部分に取り組まれているのかなというふうに思います。

人口規模と産業、そして町の歴史や文化と深いつながりを生かしたバランスの良い取り組みがこれから必要になってくるのかなというふうに感じました。

全体を通してですけども、柔軟性を持った考え、あらゆる世代が、まちづくりにかわりを持つということが、まず一つは大切なことかなというふ

うに思います。

先ほどもお話ししましたが、網走の魅力をですね、何でもある網走ということで魅力をつなぎ合わせて、協力してですね、かかわっていけるといった網走市なるようにですね、我々もこれから努力していかなければならないというふうに思いましたし、同時に、網走の体験観光の部分でも、可能性がまだまだ、あるなという部分で強く感じさせられた行政視察でした。

○渡部眞美委員長 皆さんから御意見をいただきましたが、私からは、まず、さぬき市につきましては、結婚定住奨励事業で、商品券を10万円を交付するといったことについて全てが良いとは思いませんでしたけれども、それを、今、拡充していろいろなことに、チャレンジをしているということと、商品券を交付することによって、商店ですとか地域活性化にもつながって、相乗効果をもたらしている事業であるということには関心をいたしました。

あと、皆さんのほうからもありましたけれども、庁舎内の若手職員さんの政策課題研究会というのが、「今年もこれから何をやるか考えなければいけないんだよね」ということを言っていましたので、ここから発信して1年間その準備期間を得て、その翌年には、もう実施しているというとそのスピード感あふれ、自分たちの町に何が必要かということを考えて、実践して、それをまた大きくしているといったその姿勢ですとか、本事業の実施までのプロセスというのは、当市にとっても、そういうやり方ができれば、参考になるべきものだと思います。

つるぎ町ですが、私はやはりつるぎの達人の方の、今まで何回同じところを通っても、何とも目に入らなかったのに、勉強会・講習を受けた後は、こんな急傾斜角が実はすごいことなのだと。

自分がそこから生まれ、育って、そこで育っているので何とも思わなかったことが、すばらしいことなんだということをきっかけに、私はのめり込んで、今このことをやっているんだということを、言われていましたので、何かその養成講座とかを当市も行って、網走でも1人でも、そういう方が増えて、まず、そういうことは、真似できるんじゃないかなと感じたところでありました。

三好市は、体験型観光でございますが、体験型観光って言いますと、例えば、川下りですとか、アクティブな何かを体験することが思い浮かぶんですけども、体験型の教育から始まったというところは

興味深いものがありまして、すごく成果があるということと、教育の面でも子供たちの心に変化が見られているということが大変重要なことであって、結果、当市と地方の交流、人との交流につながっているんだなということを感じたところでした。

古民家を活用した宿泊施設というのも拡大事業ですが、これらは観光を活かして、先ほど立崎委員のほうからあったように、地元の方にはこの語る女性には何も言えないだよ、この人が仕切っているだといった方がいて、観光に関してその地域づくりというのか、しっかりと確立に向かっているという部分では、すごく進んでいるなど感じました。

なかなか、当市においては、大規模農家での受け入れは、難しいんですが、当市の素材をまず見きわめて、サテライトオフィスは、網走にもニーズがあるといった的を得たこと考えて、やっていくということか必要になってくると感じて帰ってきたところでは。

サテライトオフィスについては、統廃合になった学校が多いという弱点を、タイミングとかもあったと思うんですけども、それを強みに変えた結果が出てきているんだなと。

三好市さんは実は視察は、全然来なかった市だったのが、このサテライトオフィスを必要とすることによって視察もふえているので、視察も観光の素材と考えているということですので、昼食をとって、外に出たら、網走で言うラルズさんよりちょっと大きく、閉店になったデパートがあって、そこに看板があって、図書館になっているということもあって、ここも実は大きな空き店舗となっているんだなということも考えたんですけども、網走も、弱点と思われるところを見つけて、それを強みにできるようなことを考えていけたらなと思いました。

最後の高知市ですが、中心市街地活性化の取組みということで、大きな事業の内容を聞かせていただきましたが、次の日ですね、木曜市に行って参りました。

さまざまな火曜市ですとか日曜市を行っているというお話を伺いながら、それは郊外の方が果物ですとか、小魚ですとか、自分の商店で販売している、自分のつくったものを持って来て、地元の人がそれを買っているということを見させていただいたんですけども、中心市街地の活性化の取組みとして、今やっているのではなく、その歴史を守っているというか、その高齢の方が一生懸命、そのブースで商

売やっている姿を見ると、歴史である出店を守っていくことが、今、中心市街地の活性化の一つの素材になっているんだなということを、印象深く感じてまいりました。

それぞれ共通の認識の部分も皆さんあると思いますので、私たち8名と事務局で、いろんな体験を同じくしてきましたので、これからも当市の参考になる事業であるものは、協力し合って進めていけたらなと思いました。

皆さんの協力のもとに、有意義な視察となったことを御礼を申し上げて、私からの報告を終えたいと思います。

皆さんから提出していただいたレポートと共に、調査の概要を事務局のほうで取りまとめていただきまして、それを添付して後日、議長あてに調査報告書を提出したと思います。

視察の取りまとめについては、以上でございます。

○渡部眞美委員長 3番のその他でございますけれども、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

なければ、以上で総務経済委員会を閉会いたします。

午前10時55分閉会
